

第119回勉強会「ジオラボ」のご案内

主催:(公社)地盤工学会九州支部/長崎地盤研究会

共催:長崎県測量設計コンサルタンツ協会 後援:長崎県技術士会

日時:平成31年4月12日(金)14:00~17:30

会場:長崎大学文教キャンパス 工学部1号館2F 5番講義室(ピロティ奥の階段上がってすぐです。)

(長崎市文教町1-14、095-819-2618)

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/bunkyo/index.html>

参加費:1,000円(資料代含む)

話題提供:14:00~17:00(①:14:00~15:30/②15:30~17:00の予定)

①地盤変動や斜面災害における航空レーザ計測の活用

平川 泰之 様 (アジア航測株式会社 主任技師)

概要:面的な地形計測の手法は、かつて空中写真からの図化が主流でしたが、近年では航空レーザ計測が主流となりました。航空レーザ計測の大きな利点は、高密度(1m四方に1点~数十点)で、樹林の下の地盤を直接計測できることです。さらに、この利点を活かした詳細な地形表現技術として「赤色立体地図」が開発されました。これらの計測・表現技術は、地盤変動や斜面災害の実態調査に大きな威力を発揮します。講演の中では、降雨による崩壊・土砂流出範囲の把握や、崩壊土量算出、地震による地盤変位の検出などの事例を紹介する予定です。

②熊本城と丸亀城における城郭石垣の被災要因と維持管理に向けた調査研究

山中 稔 先生 (香川大学 創造工学部 教授)

概要:近世城郭石垣の多くは戦国時代から江戸時代初期に築造され、これまで400年以上が経過することにより変状が進行している。石垣の変状は、基礎地盤や石垣背面盛土の状態に起因することが考えられる。今回の講演では、2016年熊本地震で被災した熊本城跡石垣や、2018年7月と9月の豪雨で崩落した丸亀城跡石垣の被災状況を説明するとともに、石垣崩壊への地盤の影響の解明を目的として実施した表面波探査や常時微動測定の結果、さらには石垣緩み域検出のための各種調査結果等について述べるものである。

長崎地盤研究会ミーティング:17:00~17:30 / 懇親会:18:30~ (大学近辺で開催予定)

※ご参加いただいた皆さまに、「建設系CPD協議会(地盤工学会)継続教育参加証」もしくは「測量系CPD協議会継続教育参加証」を発行いたします。

お申込みについて:勉強会へご参加の方は、配布資料の準備のため下記宛先までご連絡いただくと幸いです。

なお、懇親会にご参加予定の方は、予約手配の都合のため、4/10(水)までにその旨ご連絡いただきま
すようお願い申し上げます。当日お申し込みの場合は、ご参加できないことがございますので、ご了承
ください。

お申し込み先:長崎大学大学院 工学研究科 システム科学部門 杉本

FAX:095-819-2627 E-mail:s-sugi@nagasaki-u.ac.jp